

令和 5 年度 ABLE Time (エイブル タイム) (総合的な探究の時間) 年間指導計画

広島市立舟入 高等学校 全日制 課程 (普通科普通、普通科国際コミュニケーションコース) 実施学年 (1) 年

学校において定める目標		<p>(1) 自己の在り方生き方を考えながら、現代社会の問題を自己の問題として捉え、課題を発見し、「問い」を立て、よりよく課題を解決していくための 資質・能力を育成する。</p> <p>(2) 共働的な活動を通じて、多面的な他者理解と自己の相対化を図り、「対話」の態度を養う。</p> <p>(3) 自己の思いや考えを、相手にわかりやすく発信する力を育てる。</p>
内 容	探 究 課 題	平和探究の実践と探究に必要な基本的スキルの習得
	育成を目指す具体的な資質・能力	<p>(1) 探究に必要なリテラシーや課題の発見や解決に必要な知識及び技能、探究の意義や価値の理解</p> <p>(2) 自分の興味関心に応じて課題を立て、情報収集やその整理、分析を通して、自分の結論を導く力及びそれらをまとめ・表現する力</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組む態度、多面的な他者理解と自己の相対化を通じた「対話」の態度</p>
付与する単位数		1 単位
授業時数の配当方法		<p>基本的に 1 単位を週ごとに割り振り実施する。</p> <p>(但し、平和学習に関して、特定の期間・日時に集中的に行う場合もある。)</p>
学 習 活 動		<p>「平和」を軸とした探究学習を行うために各教科の特性に応じて以下の学習活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科：入学前課題の書評と関連して図書室の使い方・小論文の書き方を学ぶ。その際、平和に関する教材、文学作品等を積極的に用いる。 ・数学科：統計量の出し方、統計量の適切な使い方、分析の仕方を学ぶ。日本が戦争をしていた時代と現代の比較・分析したり、現在戦争をしている国と日本の違い（幸福度や月収など）や住みたい国ランキング上位と豊かさの関係等を考えることで「平和」を多角的に見る。 ・地歴公民科：平和資料館について「分析的空間」と「共感的空間」の2つの観点から歴史をみる。 <p>※（歴史総合として）令和 4 年度入学生に対して実施した歴史総合の大項目 A「歴史の扉」を総合的な探究の時間としておこなう。 1・2 時間目 舟入高校の黒タイツ禁止の校則の</p>

	<p>意味や妥当性について考える 3 時間目 江戸時代の寺子屋と明治の小学校の校則を比較し、「事実」と「歴史叙述」について考える</p> <p>・理科：「正しい研究」をすることで、あらゆる面で「平和」に寄与することができる。一方で、意図的であっても意図的でなくても「正しくない研究」をすることで、「平和」を壊すことにつながるということを、研究倫理のガイダンスを通して共有していく。</p> <p>0、各科目からのガイダンス</p> <p>1、なぜ、研究？（研究とは？）</p> <p>2、なぜ、研究倫理？</p> <p>3、ケーススタディ検討</p> <p>4、研究の基本精神</p> <p>5、研究と日々の理科授業とのつながり</p> <p>・外国語：英語による①必要な情報を取り出してまとめる力と②それを英語で表現して発信する力の基礎を国連スピーチ、プレゼンテーション、世界の偉人関連の平和文書等を用いながら教授する。簡潔な英語で実際に書いたり話したりする時間とする。</p> <p>・保健体育：社会課題について情報を収集し、発信する力を育成する。オリンピックやSDGs など健康やスポーツと大きくかかわる社会課題についての題材を主に扱う。</p> <p>・芸術：知覚感受したことを自らの感情や思考として、他者に伝える能力や、物事に最後まで粘り強く取り組む姿勢を育成する。パフォーマンス鑑賞を行い、考察・要約する活動を行う。</p> <p>・家庭科：礼儀作法について等、ソーシャルスキルを身につけるための時間とする</p>
<p>教材の使用 等</p>	<p>1. 『課題研究メソッド 2nd Edition よりよい探究活動のために（岡本 尚也 著）』</p> <p>2. 『ひろしま平和ノート——ヒロシマ発 持続可能な社会の実現（広島市教育委員会編）』</p> <p>3. 『証—被爆 70 周年慰霊の記（舟入・市女同窓会編）』</p> <p>4. 『何のために「学ぶ」のか（桐光学園・ちくまプリマー新書編集部 編）』</p> <p>5. 舟入高校のオリジナル教材</p>
<p>指導方法・指導体制</p>	<p>・イノベーションデザイン部が策定した指導計画に基づき、各教科・科目と連携をとりつつ、指導にあたる。</p> <p>・1 学年会で情報を共有しつつ、月ごとに担当教科を変えて、全教職員で指導にあたる。</p>

評価規準・評価方法	<p>(1)探究に必要なリテラシーや課題の発見や解決に必要な知識及び技能、探究の意義や価値の理解を身につけることができている。</p> <p>(2)自分の興味関心に応じて課題を立て、情報 収集やその整理、分析を通して、自分の結論を導く力及びそれらをまとめ・表現する力を 身につけることができている。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組む態度、多面的な他者理解と自己の相対化を通じた「対 話」の態度を身につけることができている。</p> <p>方法：読書体験や社会の諸問題についての原稿・レポートの作成、成果物の読み合いと評価及び分析、レポート等をもとにした発表</p>
-----------	--

単 元	月	探 究 の 過 程	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動	時 数	学 習 形 態 (場 所)	各 教 科 ・ 特 別 活 動 等 と の 関 連 指 導 上 の 留 意 点 等		
読 書 体 験 の 充 実	4 月	探 究 の 方 法 の 習 得	<p>●入学前課題：新書による問い立て → 「何のために「学ぶ」のか」を読み、要約と舟入高校で「何のために学ぶのか」という問いに答える形で文章を書く。</p>	1	学 年 単 位	<p>・ 自己の興味・関心と社会の諸問題とを結びつけ、「問い」を出す練習を行うとともに、舟入高校で求められる探究力を知る機会とする。</p>		
			<p>●ガイダンス (講堂で行う)</p> <p>・舟入高校の探究学習の流れ、図書館の利用方法と読書の意義、外部へ出ていくことの重要性</p>			(3)	HR 単位	<p>・ イノベーションデザイン部が担当する。舟入高校における3年間の探究学習の流れを知るとともに、探究に必要な力や姿勢を知る機会とする。また、どのような社会貢献が自分にできるのかを考察するとともに、大学進学等の将来の専門的な学びと関連させて考える糸口とする。</p>
			<p>(●「問い立て」の導入と舟入高校の「平和」の歴史)</p>				学 年 単 位	<p>・ 歴史総合の授業内で3時間程度行うため、単位としては「歴史総合」に換算されるが、内容は舟入高校の総合的な探究の時間のカリキュラムのベースとなるものである。</p>
<p>●研究倫理 (講堂で行う)</p>	3	学 年 単 位	<p>・ 理科教員が担当する。研究倫理の説明を行い、探究を進めていくうえで必要な倫理を学ぶ。</p>					

	5月	探究の実践 ①	●「問い立て」の手法 (講堂で行う)	1	HR 単位	・ イノベーションデザイン部と外部講師が担当する。講演会の形式で舟入高校オリジナル「問い立て」の説明を行う。
	6月		●SDGs及びオリンピックを題材とした平和探究 (2クラス1展開を作る予定)	3	学年単位	・ 保健体育科が担当する。探究学習の形式で、平和を考えることで、探究の流れを把握すると共に、探究を行っていくうえで必要なことを生徒各々で再認識する。
	7月		●平和の伝承 (講堂で行う)	1	学年単位	・ 被爆体験を聞き、被爆の実相と被爆者の願いについて理解を深める。 ・ 平和記念資料館見学、碑巡り、市女慰霊碑献花を通じて、被爆の実相や核兵器廃絶に向けた国際社会の取り組みを理解し、平和な社会の実現に向けて自分たちのできることを考える。
	8月		●ソーシャルスキルの習得 (講堂で行う)	1		・ 家庭科が担当し、夏休み以降、校外で探究学習を行うために必要な礼儀作法等のソーシャルスキルを身につける。
	9月		●芸術の世界における「平和」 (講堂で行う)	3	HR 単位 (教室)	・ 芸術科が担当し、芸術の分野での「平和」探究学習を行う。
世界を知り考える	10月	●碑巡り学習 (HR 教室) → 事前事後学習を国語科と地歴公民科が担当して行う	3		・ 事前事後学習を国語科と地歴公民科が担当して行う。 (内容) ① 「平和資料館は分析的空間であるべきか、共感的空間であるべきか」という視点で平和資料館を見学する。 ② 「平和資料館はどの程度実物展示主義であるべきか」をMQとするジグソー法学習を行う。歴史分析と記憶の継承という文脈においてフィクションの功罪について検討、判	

		情報 の 整 理 ・ 分 析 ・ ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ●レポート・論文の書き方 (HR 教室) ●統計と情報処理 (HR 教室) 	2 3		<p>断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語科が担当し、レポート・論文の書き方指導を行う。 ・ 数学科が担当し、探究学習に必要な統計・情報処理の学習を行う。
1 月 2 月 3 月	課 題 の 設 定 ・ ま と め ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ●1年間のまとめ・発信 ●2年次の課題設定 (各 HR 教室) ●課題研究共創発表会 (講堂で行う) ●春休み課題 	3 1	HR 単位 (教室) 学年単位 (講堂)	<ul style="list-style-type: none"> ・英語科が担当し、英語でのレポートおよびプレゼンテーションの作成の仕方を学ぶ。 ・ DID と1学年担任が担当し、個人の課題設定を「問い立て」によって行う。 ・ 2年生エイブルタイムの課題研究発表を学年全員で聞く。 ・ 1年間の個人の考察の集大成として、「2年生の研究課題テーマ」というタイトルでレポートもしくはプレゼンテーションスライドのいずれかを作成する。使用言語は英語でも日本語でもよいが、要旨は必ず英語で書く。 <p>※これをもって2年生の自由課題研究のグループ決めが行われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「何のために「学ぶ」のか」を読み、要約と舟入高校で「何のために学ぶのか」という問いに答える形で文章を書く。 	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間の探究学習は「平和」という共通テーマの下、行われる。この探究学習における「平和」の定義は「持続可能な社会、共生社会を形作ること」とし、①非戦、②自由・平等・個の尊重、③豊かな日常生活の3つの視点（柱）をもって一貫性をもたせることとする。 ・ 情報活用能力については「情報機器の基本的な使い方」「情報の整理の仕方」「情報の発信の仕方」等を各教科の特性に応じて月ごとに目標を定め、育成することとする。 					